

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 リリー保育福祉専門学校 実施報告書



実施主体 こども未来学科心理コース3年生

実施内容 平成25年11月水戸市街や学科発表会で啓発活動

①事前に取り組んだ内容

虐待の種類や現状などの基本的内容について、講義で学習した後、各自がテーマを設定し、より詳細な調査、研究を行った。また、一般への配布用に手作りのオレンジリボンを作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

水戸市内で開催されたイベントで子ども向けにスライム作りを実施し、訪れた保護者にチラシとリボンの配布を行った。また、水戸駅では利用客にチラシとリボンを配布した。さらに、こども学科発表会にて、来場者に対してリボンの配布を行い、約800人に児童虐待防止を呼びかけることができた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

始めはオレンジリボンの存在すら知らなかったが、今回の活動を通して理解を深めることができた。リボンを作成する際は、虐待が少しでも減るようにとの願いをこめて作成した。

駅や街頭で啓蒙活動をしてみると、オレンジリボンを知らない方が大部分を占めており、もっと多くの方に知っていただく必要性を強く感じた。将来、幼稚園教諭や保育士になる私達が虐待について学び、多くの方々にその現状を知っていただくことは、とても意義のあることだと思う。

今後も継続して活動をすすめ、虐待に苦しむ子どもが一人でも救われれば良いと思う。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

常磐大学 実施報告書



実施主体 ヒューマンサービス学科 2～4 年生有志

実施内容 平成 25 年 10 月 31 日の水戸駅周辺にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

テーマ「児童虐待の現状及び対応について」(講師:茨城県福祉相談センター)の研修会を学内で実施した。参加者は学内の教職員及び学生(2年生～4年生)である。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学内の各所にポスター貼付の他、学園祭ではオレンジリボン運動説明のためのコーナーを設けた。さらに水戸駅周辺で、オレンジリボン、パンフレット、しおりを個別に配布した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・パンフレット等の配布だけではなく、
そこでいかに中高生などと「対話」
をするかが当運動の質の向上につ
ながると感じた。
- ・ある中年女性からは、具体的に“何か
活動できることがありますか”と言わ
れた。主体的な関心を持ってくれた
人もおり、実施主体の側としては嬉
しかった。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」



国際医療福祉大学大学院 実施報告書

実施主体 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 助産学分野修士 2 年生

実施内容 平成 25 年 10 月 12・13 日の大学祭にて啓発活動

① 前に取り組んだ内容

- ・運動の理解と活動趣旨の徹底、事前学習（法律、全国・栃木県の現状）・掲示資料作成(虐待の種類、全国・栃木県の虐待相談件数、相談窓口、チェックリスト)・オレンジリボンの作成。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・オレンジリボン運動や児童虐待についての掲示物の展示。・児童虐待についての資料を提示、閲覧者への説明。オレンジリボン、リーフレットを配布。大学ポロシャツにリボンをつけた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想

- ・虐待が減ることを願っている。
- ・児童虐待の原因や背景などについてもっと知りたい。
- ・虐待による心的外傷のリハビリについても調べてみたい。
- ・虐待が思ったより身近だと知った。
- ・命の誕生（家族の絆の深さ）の重みについて考えた。
- ・虐待と思われる子どもを発見したら、適切な対応をしたい。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東京福祉大学 実施報告書



実施主体 保育児童学科保育児童専門演習Ⅱ(ゆうゼミ)他有志170名
実施内容 平成25年9月～11月 大学祭や地域での啓発活動

①事前に取り組んだ内容

●ゼミで「学生の出来るオレンジリボン運動」を討論して計画を立案した。●活動を広げるために、学科の1年生全員、2年生の有志に活動と呼びかけ、総勢170名を組織した。●また、地域と連携して進めるために、大学が立地する伊勢崎市市役所児童福祉家庭課と協力して勉強会を開き、事前に児童虐待防止について学んだ。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

●大学内にポスターを掲示し、学生・職員にオレンジリボンを配布した。●大学祭において展示、模擬店、工作のコーナーを設け、児童虐待防止活動を訴えた。(来場者600人)●市内の店舗・金融機関・学校・幼稚園等に赴き、ポスター掲示の協力を依頼した。また、市役所で行なわれたオレンジリボン展示(11月5日～15日)に手伝いとして参加した。●本学でのオレンジリボン運動の報告を兼ね厚生労働省を訪問し、国として取り組む児童虐待防止活動を学んだ。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

●今回の活動で感じたことが三点ある。一つは、ゼミの呼びかけて多くの学生が参加してくれたことである。たくさんのグループが協力して取り組み、1年生にとっては貴重な経験となった。また、地域の商店や銀行、ホテルなど様々なところが思いのほか協力してくれた。

●二つ目は、「オレンジリボン運動」の認知度の低さである。大学祭の来場者にアンケートを採ったところ、「オレンジリボン運動」について「知っていた」と答えたのはわずか20%と少なかった。これからさらに広げていかなければと感じた。

●三つ目は「児童虐待」を事前に防ぐためには、学生だけではなく、母親・父親・祖父母・親戚にも関心を持ってもらい、さらに、子ども自身が行える「オレンジリボン運動」を創ることが必要だと思った。これから先も様々な形で「オレンジリボン運動」を続けていきたい。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 群馬医療福祉大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学部 鈴木靖弘研究グループ

実施内容 平成25年11月16日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

「児童虐待」「オレンジリボン運動」への理解・趣旨説明を実施し、学生が児童虐待について調べ、グループディスカッション・研究発表等を通して、啓発活動実施のための準備を行った。また、児童虐待防止に関する広報・啓発資料として自作のパンフレットを作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

オレンジリボン運動の専用ブースを設け、来場者へカード及びリーフレット、自作のパンフレットを配布し説明を行った。また、来場者自身にオレンジリボンを作成してもらったうえ、児童虐待防止に向けて来場者からメッセージを書いてもらった。ブース以外の場では、大学敷地内をオレンジリボンの看板を持って、リーフレット、自作のパンフレットを配布して回った。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

児童虐待について調べることで学生が主体的に動き、他人事とは捉えられなくなり、身近に起こりうることとして考えるようになった。そして来場者へ呼びかけることで意識が高まった。

自作のパンフレットを作成する際、いかにしてオレンジリボン運動への理解を深めてもらうかを検討する中で、より理解が深まった。オレンジリボンのメッセージボードを作成し、そのボードに虐待防止に向けてのメッセージを来場者に書いてもらうことで来場者にもオレンジリボンへの意識を高めていただくことができた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 埼玉東萌短期大学 実施報告書



実施主体 幼児保育学科 2年生有志

実施内容 平成25年10月12,13日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

ポスターを人通りの多い場所(本学および近隣施設)や地元の方が利用する本学附属図書館に掲示し、目にとまりやすいようにしました。また、チラシやしおりも図書館に置き、より多くの方に手に取ってもらいやすいようにしました。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

オレンジリボンや虐待について要約した展示物を作り、掲示を行いました。若者の興味を引きやすい製品とオレンジリボンの自作リーフレットをセットにして販売しました。また、若者の興味を引く可愛いカードにオレンジリボンの紹介を書き配布しました。チラシやしおりを本学の文化祭である東萌祭で制作したパンフレットの中に挿み配布しました。これらのことで幅広い年代の方にオレンジリボンの存在とその必要性を知ってもらえたかと思えます。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

この運動に参加した多くの学生はピンクリボン、レッドリボンやブルーリボンの存在は知っていたものの、児童虐待防止の運動としてオレンジリボンがあることは知りませんでした。今回、この運動に参加することで、児童虐待という問題は社会全体で取り組んでいかなければ防止につながらないこと、また、課題も多いが乗り越えていかなければ、子どもの最善の利益につながらないことなど、多くのことを学ぶことができました。この運動を通して、児童虐待防止啓発月間など社会全体での運動の広がり的重要性を感じました。

これまでは、多くの学生が、自動車や洋服などについているバッチやシールにはあまり気づくことがありませんでしたが、今回の活動を通して意識するようになると、それに気づくようになり、オレンジリボン運動が確実に広まってきていることを実感しました。本学は保育者養成校です。より多くの学生に、この運動への参加を呼び掛けると同時に、近隣地域へも積極的に啓発をしていきたいと考えています。これらのことを通して、これからも、児童虐待の防止に少しでも貢献できるように努力していきたいと思えます。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 埼玉純真短期大学 実施報告書



実施主体 こども学科 2年高橋ゼミ、学生会執行部

実施内容 平成25年10月19日・20日の純真祭(大学祭)にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

事前学習として、児童虐待防止法等の成立やオレンジリボン運動について、調べ学習を行った。その後、ゼミの時間を活用し、配布用のリボンの作成を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

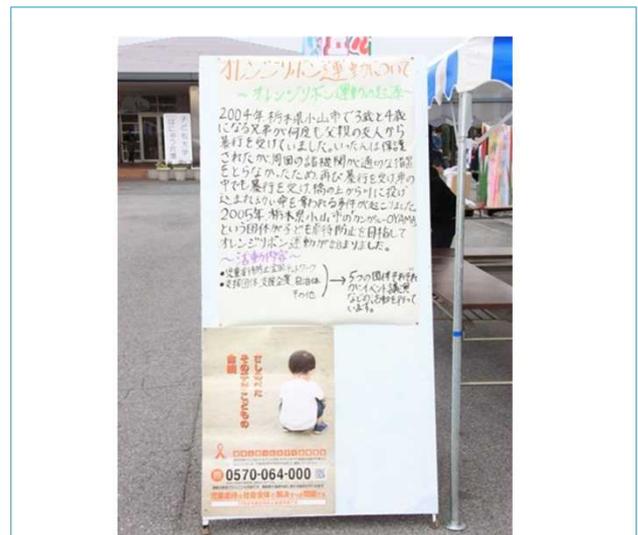
大学祭で事前学習で調べた内容をポスター発表(掲示)し、あわせて来場者へリーフレット、作成したリボンの配布を行った。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

(学生A) オレンジリボン運動について調べ、模造紙にまとめていくにつれ、オレンジリボン運動や虐待について深く学ぶことができました。そして、この活動のこと、虐待についてのことをたくさんの人に知ってほしいと思いました。

(学生B) 学園祭では、親子連れでいらした方も多く、その方を中心にリボンを配りました。それは、この活動をとおして「児童虐待防止」を知ってほしかったからです。リボンはゼミの時間を使ってたくさん作りましたが、全部を配ることができなかったのが残念です。

(学生C) 虐待を防止するためには、オレンジリボン運動を多くの方に知っていただく必要があると思いました。そのためには、子どもとかかわる仕事に就く私たちが声に出して伝えること、子どもたちの小さなSOSに気づくことが今後の課題になってくると感じました。



大学HP: <http://www.sai-junshin.ac.jp/index.html>

平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

国際学院埼玉短期大学 実施報告書

実施主体 学友会（在学生全員）

実施内容 平成 25 年 7 月 31 日ボランティア活動および 11 月 2～3 日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボン運動の資料を配布し、趣旨を学んだ後、活動当日掲示用のポスターや展示用大型リボンの作成、配布用オレンジリボンの作成を行った。またホームページにも掲載した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

様々なコーナーにおいて手作りポスターや大型リボンの掲示、リボンの着用等により、オレンジリボン運動の周知を図るとともに、リボンやチラシの配布を行い啓発活動を行った。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

この運動を行う前は、オレンジリボン運動を知らない学生が多数いましたが、この活動により、まず私たちがオレンジリボン運動の趣旨や意義を理解し、全学的に活動を行うことができました。また私たちの運動を通し、来場された方々にもオレンジリボン運動を知って頂くことができ良かったと思います。これからも多くの方に知って頂きたいと願います。



チラシ配布
(バザーコーナー)



リボン配布
(受付)



手作りリボン掲示
(幼児絵画展)

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 埼玉県立大学 実施報告書



実施主体 書道サークルwithオレンジリボン(保育課程有志)

実施内容 平成25年10月26日、27日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

授業等において児童福祉や児童虐待に関する現状や関連機関等について学習していた。また、8月中に越谷市役所の子ども支援課を訪問し、現状に関する知識を深めた。展示コーナーの手前に設置したパンフレットの収集時には各市の児童虐待に関する情報について話を伺った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

模造紙を使用してオリジナル展示コーナーを作成した。周辺地域の市役所を訪問して収集したパンフレットを置いた。オレンジリボン作成コーナーを設置し学生が説明を行った。ボールプールや折り紙、遊具等を配置し、家族や親子、学生との交流が生まれるスペースを設けた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン運動を行い、ご来場頂いた多くの皆様には運動について認知して頂いた事を感じた。展示パネルの内容は、特にご来場を想定される方々を対象として作成したが、私たちにそこから連想されたエピソードや思い、考え等についての意見をお聞かせ頂けた。

児童虐待に至るまでの予防法や対応等についての認識を広める事ができたのではないかと自負する。

多くの方々と共に認知や考えを深められたと共に、実施した私たちの学習も深められた。



【埼玉県立大学ホームページ】 <http://www.spu.ac.jp/>

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

聖学院大学 実施報告書



実施主体 『ボラフェス！2103』実行委員会、『人間福祉のお部屋』担当学生
実施内容 平成25年11月1日・2日の大学祭(ヴェリタス祭)にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボン作成ブースの準備、リボンづくりの練習、会場準備

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・大学祭である、ヴェリタス祭にて、オレンジリボンの作成ブースの設置・対応
- ・学内でのリボンやパンフレットの配布、啓発活動
- ・学内掲示板へのポスター掲示

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

・リボン作成時に参加者の方に啓発内容を説明した際、真剣に聞いてくれる方が多かった。

・学園祭ということもあり、賑やかな模擬店などがあるので足を運んでもらえるか心配もあったが、リボンを作成しに来てくれたり、パンフレットやリボンを受け取ってくださる方が多かったのに驚いたと同時に嬉しかった。

・オレンジリボンを通して児童虐待を知るきっかけを作れた。

・リボンを胸や帽子につけて学園祭を回ってくれる方が多かった。



オレンジリボン作成ブースの様子

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

城西国際大学 実施報告書



実施主体 看護学部看護学科1・2年生「子ども虐待予防ゼミ」
実施内容 平成25年11月3日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- 「親・子ども・看護師、三者の立場から考える子ども虐待予防」というテーマで文献やインターネットの情報、地域の調査などを行い、ゼミ発表会でプレゼンテーションを行いました
- 大学祭展示用のポスターを作成しました
- オレンジリボン(500個)とオレンジリボン運動を知ってもらうためのリーフレットを作成しました

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ポスター展示を行い、子ども虐待予防について発表しました
- オレンジリボンとオリジナルリーフレットを学生と来場者に配布し、協力を呼びかけました
- 好きなシールを貼って、オレンジリボンオリジナルカンパッチを作るコーナーを設けました
- 留学生にオレンジリボンについて説明し、配布しました
- メンバーの子どもの時の写真でポスターを作成し「笑顔を守ろう」というメッセージを伝えた

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ポスターを作成し発表したことで虐待防止について広めることができたと思う
- 私自身、オレンジリボンをはじめて知り、このような活動があることを紹介できてよかった
- オレンジリボンを持ち物などにずっとつけていてくれる人がいてうれしかった
- 今回の活動でオレンジリボンの意味を、多くの人に知ってもらえたのでよかった
- オレンジリボンやリーフレットだけでなく、カンパッチを当日作成することでたくさんの方に知っていただけたと思う
- オレンジリボンを知らない方が多く、感心を持って説明を聞いていただけたことがうれしかった
- 配布した方がオレンジリボンをつけていてくれるだけで、同じ活動をしている仲間と思えてうれしかった



<http://jiu-nsba.com/seminar/626>

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 國學院大學 実施報告書



実施主体 子ども支援学科 1年生有志

実施内容 平成25年10月27日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

近年の児童虐待の現状について学び、今後、児童虐待を防止するために具体的にどのような対策が必要なのか考えた。

オレンジリボンの材料を用意し、学科全体で手作りのリボンの作成をした。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

他の企画の学生や教授、学校のマスコットキャラクターも手作りのオレンジリボンをつけて活動した。

入試相談ブースにオレンジリボン運動のブースを設置し、高校生を中心に、運動の目的や説明をしながらオレンジリボンを積極的に配布した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

私たちはオレンジリボン運動に参加し、近年の児童虐待の現状を具体的に学んだことで、年々増加していく児童虐待に危機感を持つことができました。

児童虐待問題は、社会全体が抱える身近な問題として、自分が親になる前に考えることが必要になります。

そのために、若年者などに向けた虐待予防のための広報・啓発を目的とした今回のオレンジリボン運動は非常に有意義だったと感じ、これからも続けていこうと考えています。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東京成徳短期大学 実施報告書



実施主体 幼児教育学科1・2年寺田ゼミ・ハーフルママ

実施内容 平成25年10月19日の大学祭(桐友祭)にて啓発活動

①事前事後に取り組んだ内容

学生320人にオレンジリボンに対する意識調査を実施。児童虐待に関する絵本。書籍の趣旨をまとめポスター掲示し虐待防止や予防には何が必要か研修会を実施。学園祭後、近隣から参加いただいた保育園にパンフ配布の協力依頼をするために出かけた。身近な子育て運動も実施した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

学園祭来場者にオレンジリボン認識度有無をボードにシールを貼る大会に参加した。また、①の結果をポスター掲示し学園祭で紹介解説した。学園祭来場者にもオレンジリボンを作成していただき、啓蒙活動につなげた。

③「オレンジリボン運動」を終えて…学生の感想

学生や桐友祭来場者の方の殆どが、オレンジリボンとは何か知らない人が多く、オレンジリボンの存在について更に広めていく必要があると感じました。今回の活動を通して、多くの人にオレンジリボン、児童虐待の現状について知って頂けたと思うので、大いに価値のある活動だったと感じました。

私自身これから保育者になる立場として、子どもたち一人一人に目を向け、子どもや親の状況をきちんと理解する必要があると思いました。ささいな変化にも気づき、常にSOSに答えられるような環境を整え「身近子育て応援活動」の重要性を広めていかなければならないと思いました。



HPアドレス(不要なら削除)

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東京学芸大学 実施報告書



実施主体 東京学芸大学 馬場幸子自主ゼミ

実施内容 平成25年11月1～3日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

『子ども虐待防止&対応マニュアル』を読んで児童虐待について学ぶ。「学生によるオレンジリボン運動」についてのチラシ、オレンジリボンの作成(2000枚、2000個)。小金井祭実行委員会にて、参加団体の代表者に配布、地域や子育て支援団体への配布・掲示、学生への配布。掲示物の作成と全国のNPOに協力の呼びかけを行う。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

小金井祭期間中、休憩室にて学生が作成した掲示物の展示や各NPOのパンフレットの配布、アンケートの実施。また11月3日には地域の子育て支援団体、現職の教員、元保健師、他大学の学生を招き、「児童虐待をこれ以上起こさせないために、私たちにできることとは」というテーマでグループディスカッションを行う。附属の幼稚園や、家庭科教育研究学会でのパンフレットやオレンジリボンの配布を行う。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

掲示スペースに訪れた来場者の反応や実際にオレンジリボンについて知った学生の反応、グループワークに参加してくれた地域の人の反応を振り返ると当大学で活動を行った意義は大きいと考える。

しかし、今年度の活動においては、小金井祭実行委員や大学学生課と「オレンジリボン」の配布に関して連携不足がみられた。小金井祭中の環境美化の観点や特定の思想の啓発という観点において、教室外で配布・宣伝することが許可されなかったが、この点に対して「どうすればこれらの問題を乗り越えられるのか」私たちのほうから学生課のほうに相談していく必要があった。そしてそのためには「学生によるオレンジリボン運動」の意義を明確にし、その活動を教育系大学である本学において行う有効性について深めていかなければならない。どうすれば周囲に理解・協力を得ることができているのかについてもゼミ生で考えていきたい。

今回の活動を通して心に残ることがあった。それは掲示を見た人からの自身の経験を踏まえた上での「向き合うのが怖い」「つらい」という感想である。また、一緒に連れてきた子どもに虐待のことを教えたくない、自分自身も虐待と向き合いたくない、という母親もいた。

掲示やパンフレットにより広報活動するだけでなく、掲示を通してケアをする、守るという観点が私たちに必要であることに気付いた。掲示を作成していく上で「身近なところに虐待がある」と学び、それを一般の人たちに伝えたかった私たちがさえも、私たちのすぐ近くにいるかもしれない、心を痛めている親子へ向けての配慮が足りなかったかもしれない。掲示や活動を通して「伝える」だけでなくその先まで考えた活動をする必要がある。このように一歩立ち止まって振り返ってみることがこの活動を進めていく上で重要な態度であることに気付いた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

日本大学文理学部社会福祉学科 実施報告書



実施主体 社会福祉学科及び社会福祉コース学生有志

実施内容 平成25年11月2日～4日の学部祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

日本大学文理学部社会福祉学科(コース)学部祭実行委員会の呼びかけで、ユニフォーム(Tシャツ)にオレンジリボンを全員つけることを提案。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

学部祭中に学科(コース)で企画に参加をした学生全員が、ユニフォームであるTシャツにオレンジリボンをつける。また、子ども広場など行っている展示会場にポスターを掲示した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

多くの学生が児童養護施設等学習支援活動としての学習塾を運営する中で子どもさんたちと交流をしていたり、学科では児童福祉を学び、児童労働や児童虐待についての関心はあるが、実際に自分たちでアピールするのは別の意味で意識化をしました。また、一部の学生は、虐待死を悼む鎮魂集会とパレードにも参加をしています。日常にかかわる子どもたちの抱える問題をこのような活動で再認識をしています。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

文京学院大学 実施報告書



実施主体 地域連携センターBICSの学生有志(約20人)

実施内容 平成25年10月19日～平成25年10月20日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・児童虐待、オレンジリボン運動についての学習会を実施し、オレンジリボン運動実施学生の知識を深め、運動に対する意欲の向上につなげた。
- ・実施当日に向け、リボンや材料の買い出しを行い、リボン1,000個を作成し、3,500枚のチラシを大学祭プログラムに閉じこんで準備をした。
- ・当日に掲示するオレンジリボン運動資料等児童虐待防止のポスターを制作した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・学園祭来校者の方々にオレンジリボン運動の呼び掛け、オレンジリボンの配布、児童虐待の現状の説明を行った。具体的には、オレンジリボン運動実施学生以外の在學生や卒業生、児童の親世代の人だけでなく、幅広い世代の来校者に対し、児童虐待についての理解を深めてもらうと同時に、地域でも市民の力でオレンジリボン運動に取り組んでほしいという願いを含めて、運動実施学生は語りかけるようにしていった。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・延べ2日間で、大学祭に来場された幅広い世代にオレンジリボン運動を広めることができたと思う。育児の経験のない人、育児中の人、育児を終えた人にも、児童虐待の現状や課題、見守りの重要性を伝えることができ、関心を高めることができたと思う。
- ・児童虐待の言葉に対して拒否する方もいることがわかったので、しおりを渡した時に困った場合は支援する場所があること、地域で見守っていくことの重要性を話し、呼びかけの方法を工夫した。また、児童の来場者も多かったため、あめを用意して親子にも興味を持ってもらえるようにした。学生たちも来場者への語りかけ、やりとりをしながら、オレンジリボン運動を通して、改めて児童虐待防止について、考えを深めていっている様子が見え始める機会となった。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」



帝京平成大学

実施報告書

実施主体 人間文化学科 社会福祉コース

実施内容 平成25年11月6日の中野区主催の啓発活動への参加
平成25年11月15.16日の大学祭にて啓発活動の実施

①事前に取り組んだ内容

◎1年、2年生は児童福祉に関わる講義内で児童虐待やオレンジリボン運動について学び、啓発活動に配布したオレンジリボン、ミサンガの作成に取り組んだ。

◎3年生は児童・地域分野で実習した学生を中心に、グループワークで「虐待原因について」「家庭支援」「虐待防止への取り組み」などを研究し、結果を発表し考察を深め、ポスターを作製した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

◎11月6日(水)、中野区長・教育長・杉並児童相談所職員等とともに、児童虐待防止普及啓発のための「オレンジリボンキャンペーン」に、学生が参加しました。

◎11月15日(土)16日(日)の四季祭(中野キャンパス学園祭)にて啓発活動

◎上記の啓発運動で配布した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

◎夏に児童養護施設や社会福祉協議会で実習を行ってきた3年生が中心になり「オレンジリボン運動」に取り組んだ。当初は、教員からの働きかけからスタートしたが、虐待についてのアンケートの実施やリボンだけではなく、ミサンガを作成して、若者にも身につけてもらえるのではないと、学生の考案で、1、2、3年の全生徒でミサンガ500本を製作し、リーフレットと一緒に学園祭時に配布した。

◎今回の運動への参加から、学生自身が調べて、考えていく中で、児童虐待の加害者は実母の割合が高いが、家庭内での「父親の育児参加」、「疾病やストレスが虐待の要因となる場合」など、机上で教員が教えるだけでは、通り過ぎてしまいがちな大切なことを学んでくれた。

◎単年で終わらせずに、継続的に活動していくことも重要だと実感している。

(社会福祉コース:齋藤知子)



上段:学園祭オレンジリボンコーナー 下段:中野駅配布

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 日本体育大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学研究室・児童福祉学研究室

実施内容 平成25年11月1日～3日の日体フェスティバルにて活動

①事前に取り組んだ内容

教職員への運営資金の協力依頼
児童虐待に関する展示物の作成
配布用オレンジリボン・オレンジリボンクイズ・くじ引き等の作成
里親制度関係のパネルの貸出し依頼(横浜市)

②実施期間に取り組んだ具体的内容

児童虐待および里親制度に関する展示
オレンジリボンの配布、オレンジリボンクイズ・くじ引きの実施
募金活動
オレンジジュースの販売
募金および売上金の寄付

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン運動はまだまだ認知度が低いと感じましたが、今回のイベントを行うことで、この運動を大勢の方に伝えることができたと思います。

実際の運動を展開していくなかで、興味を持ってくださった方は女性が多かったように感じました。

～学生リーダー



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

東洋大学藤林・川原ゼミ 実施報告書



実施主体 社会福祉学科2年生藤林・川原ゼミ

実施内容 平成25年11月2日~3日大学祭並びに11月27日~29日大学内にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・それぞれのゼミにおいて、児童虐待への理解を深めるための学習を行った。
- ・その上で、グループごとに役割を決め、啓発活動を効果的に行うための方法等を検討した。
- ・資料やポスターの作成したり、新聞の切り抜きを掲示する場合の著作権の問題について調べたり、無料でDVDの貸し出しを行っているところを探したりした。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・学園祭における啓発活動として、法務省DVD放映、児童虐待の記事等の掲示、児童虐待についての文献やマンガの紹介、オレンジリボンの作成・配布
- ・大学内において、児童虐待について模造紙による掲示とオレンジリボンをつけたティッシュペーパーを配布

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・自分たちはオレンジリボンと虐待の関係分かっているが、一般の人は理解していないので、もう少し児童虐待を前面に打ち出すべきだった。
- ・世の中には虐待のような社会問題に興味がない人が活動を通じて大勢いることをあらためて実感した。そのような人たちに興味を持ってもらうには、どのように工夫すべきか考え続けたい。
- ・オレンジリボンを配布することに恥ずかしさがあり、なかなか足を踏出せなかったが、グループメンバーが次々に配っている姿を見て、仲間と一緒に頑張ることとてもいい経験ができた。
- ・啓発対象を学生に絞ることで、それを基に伝える内容を工夫した。それによってより情報を的確に伝えることが出来るのではないかと思った。
- ・児童虐待という社会問題に取り組むことで周囲の人に耳を傾けてもらうことが、どんなに難しい行動であるか体験を通じて理解することができた。
- ・オレンジリボン運動に取り組む中で、まだ学生だけれど学生なりにできることはもっと沢山あるのではないかと思った。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東洋大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学科 姜ゼミ

実施内容 平成25年10月29日～平成25年11月12日

①事前に取り組んだ内容

- ・外部から講師を招き、ゼミの学生達がしっかりと児童虐待に関する基礎知識の学習。
- ・配布するオレンジリボン作り。・学内にポスター貼り。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・期間中には、学生自ら児童虐待の現状を実際に調べ、発表した。
- ・学内にブースを設け、学内でチラシとしおり、オレンジリボンの配布をした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

・成果としては事前準備として外部講師を招いて、児童虐待に関する基礎知識や現状・実態について学べる機会が設けられた事で、22人ゼミ生にしっかりと児童虐待に関する知識が得られた事である。これによって、実際に「オレンジリボン運動」を実施した際には、知識がないまま実施するより意識的に学生が変わっていた。

・一つ残念なのは、学内における活動が制限されていて、事前に計画していた実施にならなかった点があげられる。

* 実施後、社養協事務局に提出する報告書を作成する事まではいいが、この報告書をまたパワーポイントに作成するように要求されるのはどうかと思います。報告書を提出したら、それをもとに、社養協事務局でパワーポイントに作してほしいです。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 白梅学園大学・短期大学 実施報告書



実施主体 子どもの虐待防止サークル及び短大中山ゼミ
実施内容 平成25年10月19・20日の大学祭にて啓発活動
平成25年11月17日 子どもの虐待死を悼む市民集会

①事前に取り組んだ内容

啓発活動を行うための学習会、学習内容をパンフレットにまとめる。NPO全国ネットにグッズ等の注文、展示パネルの作成。市民集会パレードの宣伝カー用のパネルの作成など。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

学園祭では、一教室を使用してパネルの展示と説明、厚労省のポスターやオレンジリボンの配布、独自に作成した資料の配布、アンケートの実施、オレンジリボングッズの配布。学園正門でのオレンジリボンと市民集会案内の配布を行う。市民集会では、宣伝カー用のパネル、会場の準備、会場での資料等の配布、受付などを行う(第1回から毎年協力実施している)

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

市民集会に初めて参加して、改めて児童虐待をなくしていかなければと思いました。山本モナさんが読み上げている時、とても心が苦しく痛くなりました。「お腹に包丁を刺されて亡くなりました」なんで、生まれたばかりの赤ちゃんが、「ベッドから落ちて・・」。泣いて助けを求めていただろう子ども、情景を浮かべるととても苦しいものでした。「あなたはちっとも悪くない」とモナさんの朗読。ただ聞いているつもりだったが、引き込まれている自分がいました。「自分が悪いから」と思っている子どもたちに、「悪くないよ」と伝えられるようになりたい。人生で初めてのパレードをして、何の意味があるのか不安でしたが、歩いているうちに、伝えたいと言う気持ちが強くなりました。歩いたことで1人にでも伝えられるといいなと思いました。これからも勉強して、活動に参加していきたいと強く思いました。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 大妻女子大学 実施報告書



実施主体 人間福祉学科人間福祉学専攻 精神保健福祉士コース・蔵野ゼミ
実施内容 平成25年10月27日の大学祭にて啓発活動、児童虐待防止月間
(11月)の啓発ポスター掲示とメッセージツリーの作成

①事前に取り組んだ内容

児童虐待の実際を調べ、勉強会(3回)を開催した。その上で、大学祭での来場者にどのようなことを伝えるか話し合い、掲示物及びオレンジリボンの作成を行った。また、メッセージツリーを作成し、「誰もがスマイル宣言」というテーマで、各自の虐待防止に対する思いを書いて貰うメッセージカードを作成した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

大学祭会場を回り、来場者にオレンジリボン(400個)とチラシを配布しながら児童虐待の現状をお話した。ブースに来てくださった方には、メッセージツリーの説明も行い、宣言を書いて頂く。台風により1日みの大学祭となったが、103名にメッセージを書いて頂いた。
また、児童虐待防止月間の11月いっぱい、学部棟内に引き続きメッセージツリーと掲示物を展示し、児童虐待を訴えると共に、大学祭に参加しなかった学生にもメッセージを書いて頂いた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

児童虐待の実態を学ぶ過程で、将来親になる自分たちが、どのように子どもに関わっていくべきか考える機会となった。

また、福祉専門職を目指す立場としても、もっと知識を持ち、さらに社会の出来事に関心を向けたいと考えられるようになった。メッセージツリーなどを作成する過程で、何人もの先生方が話しかけてくださって、社会問題を話題に話せることが楽しかった。

友人にメッセージを依頼する際、熱く児童虐待の実態の説明をしている自分にびっくりしながらも、友人も熱心に聞いてくれて嬉しかった。

大学祭で、障害を持っている方や高齢の方も積極的に話しかけてくださって、自らメッセージを書いて頂いた。虐待は、児童をはじめ様々な所で起こっている等をお話しすることもでき、感じることや考えることがたくさんあった。

今後、毎年大学祭でオレンジリボン運動をするように後輩にも伝えていきたい。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

東京福祉大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学科社会福祉専攻 2 年生ボランティアサークル

実施内容 平成 25 年 10 月 19 日・20 日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

学園祭でオレンジリボン運動をしたので、来場した人たちに向けて、資料配布やどのような内容なのか説明を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

オレンジリボンについて知っている人が少なかったので、オレンジリボンのホームページを見てどのようなことをしているか調べた。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン運動を実施して、学園祭に来場してくれた人達に少しでも興味・関心を持っていただけたと思う。この運動を通して私たち実施者も児童虐待について学ぶことができた。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 明星大学 実施報告書



実施主体 ボランティアサークル「Merci」

実施内容 平成25年11月2日～4日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・サークル内での児童虐待についての認識の確認と勉強会
- ・配布用のオリジナルチラシの作成
- ・本大学のボランティアセンターへのオレンジリボン活動の協力願い

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・文化祭(星友祭)サークル出店場所でのチラシ、リボン、カードの配布
- ・来客者の方へのオレンジリボン活動の説明
- ・文化祭参加部員でのオレンジリボンバンドの着用による個々の意識の向上と文化祭来場者へのアピール

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボン活動を行う事により、サークル内で児童虐待についての深刻な問題・課題を、改めて関心の対象として学ぶ事ができた。当サークルの部員が福祉を専門に学ぶ学生で構成されている為、実際にこういった活動を行うという事は今後「福祉」というものに触れて生きていく上で貴重な経験となったと考える。

また、文化祭での活動により、オレンジリボン活動の存在を多くの方に知ってもらえたと共に、児童虐待の問題をメディアを通して知るのとはまた別の切り口から触れる事で改めて危機感を感じてもらえたように考える。

オレンジリボン

オレンジリボンとは??

NPO法人児童虐待防止法全国ネットワークが総合窓口を担っている児童虐待防止の広報啓発活動です。

2004年栃木県小山市で3歳の子供に暴行を加えた父親の友人が、再三にわたって暴行を受け、息も絶え絶えの状態に陥った上から川に投げ込まれ、幼い命を奪われるという痛ましい事件とかがけ、全国でオレンジリボン運動が始まりました。このオレンジは里親家庭で育てる子供が「明るい未来を絶」って運んだとされています。

オレンジリボンバンドの管様のハチが、オレンジリボンが子供たちを預ける親の心と包み込みます。子供を虐待防止オレンジリボン運動に協力をお願いします。

※詳しくはオレンジリボン運動のHPをご覧ください。 明星大学ボランティアサークル「Merci」

お願い

見今日、新聞でもニュースでも虐待の報道は後を絶たず、親の心の非道な虐待行為に傷つて、最悪命を奪う事もある。そして後には、子供は誰かの想像と異なり、子育ては誰かの結果で当り前、決して甘い思い、子育て、決して甘い思い、家庭によっては想像と異なり、甘んじず、例え多量の子供でも、その時、重要な事、第三の立場、たとえ、思っている、(同国の人が)子育ての困難を、家庭のみの問題とせず、虐待が、家庭の前の段階から何らかの支援を、子育てのハードワークが、結果として、かかってくる問題、は、本気で決断、た、思、い、ま、う。

オレンジリボンって何? オレンジリボンとは、児童虐待防止運動のシンボルです。厚生労働省は毎年11月を児童虐待防止推進月間に定め、各都府、各地域でリボンのオレンジ色で埋め尽くすという運動を展開している。

児童虐待について 日本は児童虐待相談件数は2008年で37,323件、2011年では59,862件と増加しています。この結果は実際には更に増えているか、被害件数が増えているか、定かではありません。(急増論の根拠は、これに言われている)けれども、今年も、対策が最優先であるのは、言うまでもありません。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 大正大学 実施報告書



実施主体 ボランティアサークル「STEP BY STEP」、「ちゃぼとひよこ」、「つみき」

実施内容 平成25年11月1日～3日

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボンを500個作成し、ポスター等の掲示を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

オレンジリボンを500個作成し、チラシをのべ500人の大学祭来場者に対して配布し、オレンジリボン運動の啓蒙・啓発を行った。

特に、三つのボランティアサークルが食べ物の出店を行っていたことから、購入いただいた方に対して主にオレンジリボン運動の説明をして、リボンを身に付けてもらうように促した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボンを配布することはできた。ほとんどの来場者がリボンを身に付けてもらった。今後は、オレンジリボン運動についての由来や児童虐待の実態等、わかりやすく掲示するコーナーを作ることも行うとよいと考える。

「オレンジリボン運動」については知っていたが、由来や地域社会が担う役割について、学ぶ機会になった。

運動の期間だけではなく、日頃から、機会があれば活動に取り組みたいと考えた。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 大正大学 実施報告書



実施主体 アーバン福祉学科ソーシャルワーク専攻2年生

実施内容 平成25年10月24日 駅や商店街、区民ひろばにて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

- ・オレンジリボンの由来や児童虐待の現状を学生たちが各自で調べた。
- ・ソーシャルワーク演習5クラスに15のグループに分かれ、調べてきたことをまとめ、何を伝えたいのか意図が理解できるように工夫しながら15枚のポスターを作成した。
- ・オレンジリボンを学生たちで500個を制作した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ①オレンジリボン600個の配布
- ②啓発物(A4リーフレット500枚、児童相談所全国共通ダイヤル照会しおり500枚)の配布
- ③作成したオリジナルティポスターの説明
- ④大学キャンパス内にA3ポスターの掲示
- ⑤実施終了後に学生の感想を学科ブログに掲載

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

・オレンジリボンや啓発物を配布することができ、住民の生の声を聴くことができ良かった。

・実施場所によって、受け入れの差が出ていた。学生にとって、社会の現実を理解する良い機会になった。

・今後は、買い物中・活動中のところで配布する際には、工夫が必要である。

・今回は高等学校での模擬講義でオレンジリボンの由来や児童虐待の実態を説明したが、今後は小中高校においてもオレンジリボン運動を行うと良いと考える。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東京成徳大学 実施報告書



実施主体 東京成徳大学八千代キャンパス手話サークル
実施内容 平成25年10月26日、27日の翠樟祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

児童虐待についての学習会を重ね、「かけがえのない命を大切にする」視点にたって手話サークルとして取組を考えた。手話歌の発表、教室展示でオレンジリボン運動のメッセージをどのように伝えるかについて、アイデアを出し合った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

ア. 展示コーナーに、手話に関係する掲示のほかに、オレンジリボン運動コーナーを設けた。イ. 展示をご覧になって、運動に賛同する方にオレンジリボンを作成し、メッセージも書いていただいた。ウ. 手話歌の初めに、運動について取り組んだ思いをスピーチした。エ. Tシャツを作成し、そこにオレンジリボンをデザインした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

ア. 事前学習や、学園祭での活動を通じて、児童虐待の現状に対する理解がこれまでよりも深まった。

イ. 運動に参加して良かった。手話歌で表現することと、オレンジリボン運動での、命の持つ尊さ、かけがえのなさを訴えることが重なりあった。

ウ. ポスター、ちらし、歌の前のスピーチを通じて、オレンジリボン運動を伝えることができた。

オ. 来場者がリボンを作成し、メッセージを書くことによって、運動に対する共感が広がった。

カ. Tシャツにオレンジリボンをデザインすることで、メッセージがより強く伝わったように感じた。

オレンジリボンの入ったシャツを着て手話歌を発表した。



平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」



こども教育宝仙大学 実施報告書

実施主体 カモスサークルと有志

実施内容 平成25年10月26日～27の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

サークルおよび有志で事前に集まり、児童虐待とは何かを今一度確認し、オレンジリボンの意味についての学習を行った。その上で、オレンジリボンやリーフレット等を配り、適宜説明することを決めた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

オレンジリボン運動は、学際期間中に行った。初日は雨のため学内だけの活動になったが、二日目は学外の方も来学され、その方々にオレンジリボンおよびリーフレット等を配った。その時に立ち止まってくださった方などには、オレンジリボン運動の意味を説明した。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

オレンジリボンについては、最近様々なリボンがでているため、何らかのリボンであることは知っておられる方が多かった。しかし、オレンジリボンが虐待防止のシンボルであることは知られない方がほとんどであり、これを機にオレンジリボンの意味を知っていただいととてもよい機会となったと思う。虐待に関する関心はあるものの、積極的に行動をされる方はあまりない印象であった。配ったら受け取るが、おいてあるものを自らとっていく、あるいは質問するという様子は見受けられなかった。顔をよく知った学生は、オレンジリボンをつけてくれるなど協力してくれた。これを機に今後も地道に活動を続けていきたいと思う。

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 小田原女子短期大学実施報告書



実施主体 保育学科 村田ゼミ

実施内容 平成25年10月13日～14日 小峰祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

社会的養護内容、社会的養護、および相談援助の授業を通して、子どもの虐待と対応策について学んだ。その後2年生前期より、ゼミ論文として、各自子どもの虐待や子育て支援にかかわるテーマで学習を進めた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

教室内に、ポスターや新聞記事などを掲示し、虐待に関する漫画や絵本、書籍などを展示し適宜閲覧してもらった。来場者にオレンジリボンや、しおり、リーフレットなどを配布し、オレンジリボン活動について、学生が説明をした。折り紙コーナーなどを設け、親子が気軽に立ち寄れるように工夫をした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

・昨年に引き続きの活動だったので、しおりやリーフレットをわざわざ貰いに来てくれる人もいて嬉しかった。

・少しでも子どもの虐待について、理解してくれる人が増えるとよいのではと、改めて思った。

・これからもこの活動を後輩に引きついで続けていきたいと思う。

・授業で習ったことを、改めて思い出しながら、具体的な活動を行うことができてよかった。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 神奈川県立保健福祉大学(新保ゼミ) 実施報告書



実施主体 神奈川県立保健福祉大学 新保ゼミ
実施内容 ゼミ内での考察・ポスター掲示

①事前に取り組んだ内容

児童虐待について考えるにあたり、家族と社会について、ゼミ内で考察した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

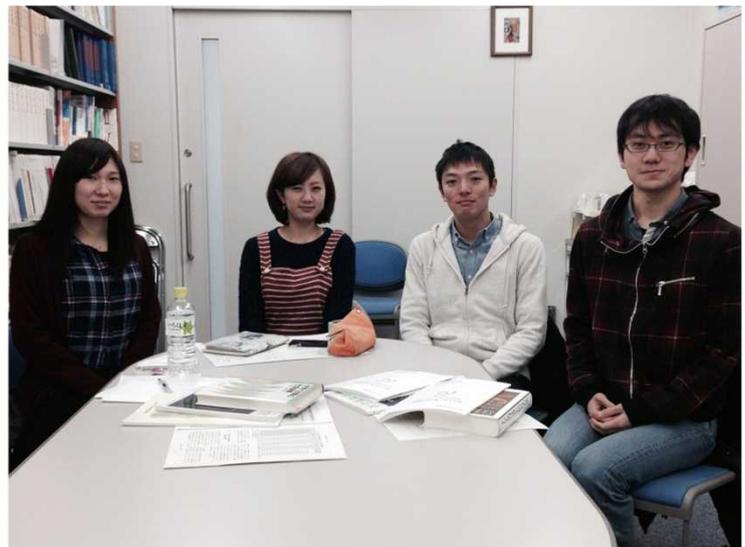
ゼミ内で児童虐待について考察し、加害者・被害者の視点に立って考えを深めた。

○オレンジリボン運動推進映画「うまれる」等、映画からの考察

○学内へのポスター掲示

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

ゼミの中での考察をしていく中で、虐待ということを認識することも大切だが、その事実だけを見るのではなく、その背景にある様々な問題(貧困や親自身の問題など)に目を向け、そのサポートをすることが、虐待の防止に繋がるのではないだろうかと考えた。



ゼミでの活動の様子

平成 25 年度

「学生によるオレンジリボン運動」

和泉短期大学 実施報告書



実施主体 児童福祉学科 ボランティアサークル

実施内容 平成 25 年 10 月 27 日の大学祭にて啓発活動

① 事前に取り組んだ内容

学生による手作りのオレンジリボンを 1,500 個作成。

学生、教職員自らオレンジリボンを身につけた。

② 実施期間に取り組んだ具体的内容

受付や入試相談コーナー 2ヶ所にて、来校者の方にオレンジリボンを配布。また、児童虐待全国ネットワークから頂いたマスクやチラシも一緒に配布し、児童虐待防止を呼びかけた。

③ 「オレンジリボン運動」を終えての感想等

学生、教職員が一体となり、学園全体で取り組み、一体感を感じている。

一日でも早く児童虐待が起こらない世の中になるよう願っている。

保育者を目指す本学生が「児童福祉」の学びを柱に、子どもと家族を支える。さわやかな挨拶、明るい笑顔、そして深い心配りで、信頼される保育者になってもらいたい。



平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」 東海大学 実施報告書



実施主体 社会福祉学科船水・小林1年生ゼミ

実施内容 平成25年11月2日の大学祭にて啓発活動

①事前に取り組んだ内容

小グループでテーマを設定し、「児童虐待とは何か」「児童虐待の被害の予防と対応」「オレンジリボン運動とは何か」等のテーマについて文献資料から情報収集した。オレンジリボンについてのアンケートを作成し、大学祭までの間に他のゼミの学生へ意識調査を行った。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

事前学習で作成したポスターを展示した。さらに、ポスター型のアンケートにオレンジのシールを貼って回答する調査を作成した。大学祭の来場者へ声かけを行い、展示をみていただき、アンケートに回答いただき、オレンジリボンを配布する活動を行った。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

事前学習の中で、あらためて、主体的に、どのような情報を提供するかを考え、情報収集したことで、漠然としたイメージであったことが具体的となった。

ただ、展示をみてもらうだけでなく、大学祭の来場者が、シール貼り式のアンケートに協力することで、参加型の展示を行うとともに、自分のこととして受けとってもらうことができた。

宿題としてではなく、自主的な活動としての主体性を高めるために、大学祭時期の土曜日を活用し、展示を行った。地域の住民等の大学祭来場者の興味関心や理解を得ることを努力することで、より、活動の意義を考える機会となった。

